

番町小学校創立 150 周年記念 同窓会ニュース



令和 3 年 4 月

発行 番町小学校同窓会

〒 102-0085 千代田区六番町 8

東京都千代田区立番町小学校内

TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731

郵便振替口座 00160-7-352085

編集 番町小学校同窓会事務局

印刷 株式会社 精興社

ご挨拶

同窓会会長 豊島 快兒（昭和41年度卒）

平素より番町小学校同窓生の皆様におかれましては、母校への多大なるご協力、ご支援を賜り心から敬意を表します。

一昨年末に中国・武漢市で発症した新型コロナウイルスが全世界に蔓延し、皆様が大変不自由な生活を強いられてることとお察し申し上げます。一日も早い終息を願うばかりです。

さて、母校番町小学校は明治 4 年 12 月 4 日に、日本の近代初等教育の礎として開校した小学校 6 校のひとつであり、本年、創立 150 周年の大きな節目を迎えます。同窓会では「創立 150 周年記念事業賛会」発足し、記念式典挙行および記念行事予定しています。

今回、皆様のお手元にお送りしました、番町小学校同窓会会報は特別企画としまして、創立 70 周年から 110 周年頃に在校された方々に小学校当時の思い出を綴っていただきました。ひとつひとつが番町小学校の歴史であり、非常に興味深いと思います。

筆者の卒業年度を付記しました。

私の番町小学校

大熊 禮子（昭和14年度卒）

昭和十四年度の卒業生です。当時は千代田区立でなく、番町、麴町、永田町、富士見、東郷（現九段）小学校が麴町区にありました。区内でも番町小学校は競技会などでは何時もトップの成績をおさめていました。卒業生名簿をみると区域外からの方が多かったので当時から有名だったようです。各学年、男子は松、竹、梅組、女子は松、竹組で 2 年後から共学のクラスができました。私たち竹組の担任は教頭の岩淵潔先生で、結構厳しく指導されました。毎週、国語と算術の小テストがあり、成績順に後ろから座られました。休み時間は校庭で戦艦ごっこが流行り、女子はゴム段飛び、雨の時は校舎の板廊下でお手玉とかおはじきをして遊びました。

夏休みには合宿があり、希望者は鎌倉材木座で水泳訓練を、上高地では河童橋のそばの河原で毎朝ラジオ体操を、そして山登りなどそれぞれ 7 日間ぐらい行っていたと思います。

修学旅行も忘れられません。伊勢神宮から、奈良、京都を巡りましたが、運悪く、奈良の旅館の焼売で食中毒にかかり、クラス半分ぐらいはひどい目にあいました。

中学は当時義務教育ではなかったので入学試験がありました。補習授業をしていたのですが、私たちの時から筆記試験がなくなり、内申書と体力検定のみになりました。男子は府立一中（現日比谷高校）

を目指している人が多かったようです。

四大節は、講堂で式典があり、生徒は全員、毎回校長先生が読まれる教育勅語を恭しく頭を下げて聞かされました。終わるやいなや彼方此方で、鼻をすすり上げる音が響きました。式の後いただいた紅白まんじゅうと共に思い出されます。まだまだ、のんびりとした学校生活でした。

戦時中は、学童疎開といって、山梨の富士吉田市に番町小学校も疎開していました。私の弟も3年生で参加していましたが、栄養失調になり、あの時のひどさは未だに忘れられないようです。学校の屋上には高射砲がありましたが役に立たず、校舎は終戦前の五月に焼夷弾で丸焼けになりました。戦後しばらくは区営住宅になっていました。今のしゃれた校舎を見ると当時のことは夢のようです。

我が家は番町小学校に兄弟、子供3人、甥、姪、今は曾孫2人がお世話になっています。毎年、創立記念日に一緒に『明治四年のこの月この日』と歌えて幸せをかみしめております。

番町小学校時代の思い出

降旗 健人（昭和16年度卒）

番町小学校創立150周年に当たり 同窓会会報特別号が発行されることとなり、投稿の依頼を受けました。同期の友人達も少なくなった事であり、80年程昔の思い出を書くことにしました。

昭和10年の頃 私は市ヶ谷砂土原町に住んでいましたが、母親の実家が麴町七番町にあり、そこに寄留して番町幼稚園に入り、翌年 小学校に入学しました。1-2年生の時は桜、梅、松、竹の4組編成で全クラス男女組でした。私は竹組で担任は小宮山先生（女性）でした。3年の時に桜、梅（男子）、竹（女子）、松（男女）組に編成替えされ、私は桜組、担任は倉田先生（男性）で卒業まで変わっていませんでした。運動好きだった私は体操担当の清水先生（男性）には親しく指導頂きました。

昭和16年12月迄は普通の小学校生活、即ち、勉強、運動会、学芸会、遠足等で楽しく過ごしました。手元にある記録（写真）では遠足は井の頭公園、大宮公園、山口貯水池、横浜港、稲毛海岸（潮干狩り）、そして6年生の時は京都、奈良などに修学旅行に行っています。

そして、世の中が変わったのは、6年生後半だった昭和16年12月8日、授業開始前に校庭で遊んでいたわれわれに告げられたのは太平洋戦争開戦の発表でした。しかし、子供だった我々には未だそれ程切迫感はなく、昭和17年3月には同期生約200名は夫々の中学校、女学校へと蛍の光の音楽と共に巣立って行きました。

私は第一東京市立中学校へ約20人の番町卒業生と共に進学、其の後 慶應義塾大学を卒業、伊藤忠商事に就職、アメリカ駐在3回を経て戦後の日本の経済復興に微力を尽くしてきた積りです。

去年90歳になりましたが、今でも番町小学校が私の人生の出发点と誇りに思っていますし、番町同期数名と毎月一度交流を続けています。（今はコロナで中断中）

番町小学校創立150年を祝し、益々の発展を祈念し拙文をを終わります。

「番町小学校の会」

藤井 宏昭（昭和20年度卒）

番町小学校は私の「根っこ」である。私は昭和15年に永田町幼稚園から入学したが、三宅坂の自宅からバスに乗って四谷で降りて通学した。私は勉強の方はいまいちであったが、最も充実感を抱いたの

はプールにおいてであった。私は平泳ぎ（ブレスト）で麴町区の大会にも出場した。2年生の時に開戦があり、昭和19年の10月には私達5年生は集団疎開で山梨県の富士吉田に疎開した。疎開中での一番の思い出は、食糧事情が悪く、生まれて初めて「ひもじさ」を体感したことである。またB29の大編隊が太平洋から富士山を目標に北上し、吉田の上空あたりで向きを変えて東京に向う姿を何度か目撃した。その度に私達は空に向かって「鬼畜米英」に対する怒りを大声で叫んでいた。翌年私は家族が疎開していた信州に移った。程なく終戦を迎え、東京に帰ってきたのはその翌年の始めで、ぎりぎりで番町小学校を卒業することが出来た。残念なのは、都心が戦災で廃墟と化していたので、友人達の多くが散り散りとなった。そのため、番町小学校のクラス会のようなものは私達にはなかった。それに近いものを持つことが出来たのはずっと後になってからである。三井住友銀行の森川敏雄氏が音頭をとって、主として財界人10名位の「番町小学校の会」という会合が2001年から年一度中華料理店で行われた。最年長は歌田勝弘氏（味の素）で草刈隆郎氏（日本郵船）が一番若手の方であった。この会では、食事のあと全員起立して「われらがかざせるこの梅の花こそ…」という校歌と、「明治4年のこの月この日…」という「記念日の歌」を斉唱した。一同かなり高齢であったが、番町を思い出して胸が高まった。残念ながら森川氏の御逝去のため近年この会は開かれていない。私は今でも昔バスを降りたあたりの四ツ谷駅前のロータリーに行くと何故か胸が高まる。令和3年に私達の母校は150周年を迎える。令和という称号は万葉集の梅の宴に由来する。「梅の花をかざす」我々にとって本当に誇らしいことと思う。

電車通学

坪内 文生（昭和33年度卒）

昭和27年入学の私はいわゆる越境入学でした。住民票を学区内に移し（寄留という）実際は自宅から通うわけです。クラスの半数以上が越境でした。越境といっても、電車やバスで通学する組と、四谷駅や市ヶ谷駅の近傍の新宿区の住人とに分かれます。学校も理解しているわけで、通学組に通学証明を出してくれましたので、晴れて通学定期を持つことができました。

当時私は渋谷区幡ヶ谷本町に住んでおり京王線の初台から新宿で国電に乗り換え四谷で下車します。そのころの電車は72系と言って3段窓、片開きのドアで、チョコレート色の車体でした。車内には中央に柱があり、「柱がないと走らない（柱ない）」と言われていました。朝は新宿駅を確か7時半ころ乗車するのですが、大変なラッシュで、学生アルバイトの「押しや」がいました。ドアのガラスが良く割れました。東京寄りの先頭に「婦人子供専用車」がついていましたがそれほどすいてはいませんでした。満員電車は子供にはつらかった。四谷駅は麴町口の階段上に改札がありました。出ると櫟の木のあるロータリーに騎馬警官がいて私たちを見守ってくれました。今でも残っている櫟の木を見ると思い出します。

帰路は、中央線下りを利用する級友と一緒に帰りました。代々木下車のM君、東中野のT君、新宿から小田急線下北沢のI君、京王線千歳烏山のO君と初台の私。車内を最後部から最前部まで走り回ったりして注意されたこともありました。中野寄りの最前部の車両の半分が進駐軍専用になっていた記憶がありますが、いつ無くなったかはわかりません。最後部の車掌室前に座席のない小さな窓のところが、そこを占拠して、窓を開け顔を出して大声で歌を歌って過ごしました。「赤胴鈴之助」や「デイビークロケット」などを歌った記憶があります。電車通学は楽しい思い出満載です。

そのようなわけで、小学校1年生から今に至るまで電車通学・通勤の人生です。

番町小学校創立 150 周年 梅の校章 越境と地元

知野 光雄（昭和36年度卒）

令和の改元のとき万葉集出典と梅花の宴が話題になった。直ぐ念頭に浮かんだのが番町の校章と校歌「われらがかざせる」である。幼稚園から7年間四番町の官舎から徒歩で通った。河合万太郎君、中村洋子さんが一緒だった。国電や、都電の定期券を胸に下げて通ってくる級友は何故か眩しかった。区域内の地元組はごく少数で、番地の関係で自身も寄留（越境）と聞いたのは後のことである。入学要領（30年4月）には山口友吉校長により「本校は昭和26年、80周年の創立記念日に天皇陛下の御臨席を仰ぎ、お言葉を賜った。」と紹介されていた。1年生の担任は山根啓作先生、2-4年が瓜生初枝先生、5-6年が田村邦太先生で、5年間クラス替えがなかったため絆は強い。給食の肝油、脱脂粉乳、空き地での野球、屋上のドッジボール、国会図書館（現在の迎賓館）での運動会、群馬県丸沼の修学旅行キャンプファイアなど、懐かしい思い出がある。社会人になってからも和光市の田村先生のお宅に新年会などで伺うと、童心に帰り羽目を外す級友もいた。麻生俊君、桜井敏君らは幼稚園からの付き合いである。3組クラスには感染症の大家田代真人君、ニューヨークの教授平山誠君、仏文学者で優れた翻訳者湊野ゆり子さんなど多士済々である。少年少女雑誌「たのしい四年生」の表紙に出たのは不思議な経験だったが、奥多摩キャンプのグラビア記事で白石卓士君、5組の久松由紀子さんとご一緒した。番町は一流私立小学校のような伝統と全国的名声、併せて越境組と地元組の子供達の絶妙なバランスが理想的な公立小学校となっている。現在も番町人気は抜群で大使館員やビジネス界の親御さんが近くにマンションを求める例も多いと聞く。小生は夏休みの宿題で提出した貝類標本が発端で生涯の趣味となった貝類研究にビジネスマン退職後も携わっている。6年3組クラス会は現在でも12-4名が集まり、校歌や記念日の歌を歌う。新型コロナウイルスで辛抱の日々であるが、校歌の歌詞のように「…霜雪に堪えて忍びてくずおれず静かに春を待ちてこそ…」の気概で乗り越え、皆で母校の150周年を祝いたいと思う。

われらがかざせる

千代田区立 番町小学校 校歌

作詞 中村 秋香 作曲 小山 作之助

われらがかざせる この梅の
花こそ心の しおりなれ
学びの庭の 霜雪に
たえて忍びて くずおれず
静かに春を 待ちてこそ
世にかぐわしき 花もさけ

我等は今こそ つばみなれ
ひらきてにおえる この花は
学びのわざを なしとげて
春を待ちえし 姿なり
いでこのかざしを しおりにて
かぐわしき名を 世に立てん

Wearing Reminder in Our Hair

trial translation by Mitsuo Chino

Wearing these plum blossoms in our hair
The reminder to our spirit let them be
'Though frost and snow on our school yard pile
Bearing, enduring, never to wilt
With undisturbed perseverance till the spring to come
Blessed shall our life be with the fragrant blossoms

Realize must we that mere buds we are
Only to emit fragrance after blossoms bloom
With the achievements of our learning, we realize
Could we grow to bloom in the long awaited spring
Advance must we with reminding blossoms unforgotten
Might we be renowned in the world to go

番町小学校の思い出

根本 眞（昭和36年度卒）

番町小学校は令和3年12月4日に150周年を迎えることになりました。麴町で生まれ、育った卒業生としてお祝いしたいと思います。6年生の時に創立90周年をお祝いしました。手元に記念の文鎮があります。中央の校章をはさみ左右に天使が飛んでいるデザインです。創立記念日にいただいた校章をかたどった紅白の落雁は毎年楽しみでした。

在校していた時代は映画「オルウェイズ、三丁目の夕日」に描かれている、オリンピックを迎える時代でした。父たちが日本経済の復興・発展に取り組んでいた時代です。生徒数はベビーブームの最終年代として6組、337名であり、三鷹市、市川市から通学してくる者もありました。低学年時には二部授業もありました。千代田区所在の学校だからこその行事ありました。3年生頃の夏休みに皇居訪問の機会があり、皇室の馬車や、馬の訓練を見学しました。また、秋の運動会が赤坂迎賓館のグラウンドで開催されたことも思い出です。

校舎は戦前からのものであったと思います。卒業生の母によれば冬はスチーム暖房とのことでしたが、私の在校時は石炭をくべるダルマストーブでした。弁当を周りに並べて温めていました。学校給食が始まって給食当番の時はエレベーターで運ばれてくる給食を教室まで運びました。校庭の一角にはウサギ、ガチョウなどが飼われており、猿のペーコもありました。

授業が終わって学校を出ると、樟脳船を売っている人がいました。友人宅を訪問したり、四谷の土手から線路を越えて外堀公園に行きました。（土手の桜は当時区長であった叔父の発案で植えられました）。時には学校に戻りました。夕方の薄闇の中、丸山先生がガリ版で宿題を作成しておられ、謄写版での印刷を手伝いました。

卒業式後、クラス仲間とは別れがたく、四谷駅前まで来ました。男女数人ずつ握手をして別れました。麴町中学までは友人の多くと一緒にでした。当時のクラス名簿をみて一人ひとりの顔をなつかしく思い起します。いま残念に思っていることは、大人になった自分を先生にお目にかけることができなかったことです。少子化で多くの小学校が廃校となりました。番町小学校がいつまでも続いていくことを願っております。

「60年前の私たち」

畑中 龍太郎（昭和39年度卒）

あれから60年、孫が小学校や中学校に通う歳になってしまった。当時の自分たちは、どんな子供だったのだろうか。

「我らがかざせる この梅の 花こそ心のしおりなれ 学びの庭の しもゆきに
耐えてしのびて くずおれず…」

「明治4年のこの月この日 この学校は はじめてたちぬ おもえばとおき むかしよな」。

梅の香が薫る校歌や遙か昔の創立記念日の歌を、今でも皆が諳じて…。それほどに、あの6年間は、

私たちにとって、決定的な意味を持つ時間であり空間だったのだろう。

あの狭い校庭やバツタが飛び交う現迎賓館での運動会、湯河原の臨海・林間学校、万座への修学旅行（ホテルの窓からの露天風呂覗き？）、オリンピックの聖火ランナー応援、土曜午後の皇居の一部開放、6年の時1泊2日で行った鎌倉臨海学校で、大仏等の古刹見学の夜、一つの布団に二人で寝たり、ニコニコ堂の文具店…。

毎年秋に行う6年4組のクラス会。卒業して40年後の2005年（平成17年）から、毎年10月に開催しているが、何年か振りに会っても、「オイ、お前どうしてたんだ？」「△△君こそどうしてたのよ？」と、無邪気に、あっという間に60年前に戻る。中高大と違うのは、「全員に」対して直ぐそうなること。全員が得難い友なのだ。

あの時代、1クラスは50数人だったが、数名の仲間と、5・6年の時の担任だった松下武司先生が旅立たれてしまわれた。先生は謹厳実直な方だったが、休み時間によく「怪談」を聞かせて下さった。自作かどうか知る由もないが、中でも「釣り鐘池の…」というのが怖かったのを今でも覚えている。

3・4年の時の担任だった阿部富美子先生は、米寿を過ぎてもなお矍鑠とされ、今でも時々電話で「真面目にやってる？」「身体に気をつけるのよ！」と、ご指導、励ましを頂いている。涙が出るほど有り難い。

入学した1・2年の担任であった石垣尚之先生からは、その誰をも包み込むお人柄から、皆が先生の回りに集まり、家族や友達を大切にする気持ちを自然に学び、人間形成の基礎となる教えを賜ったと思う。誠に残念なことであるが、先日、我々と同学年だったご子息、石垣尚実氏から、先生が昨年3月4日、96歳で天寿を全うされたと伺った。合掌。

しばしば、「子供は、親（教師）がかけた愛情に比例して豊かになる」と言われる。どの先生も、私たち悪ガキにも、真正面から向き合い、どの子供も別け隔て無く、全身全霊を傾けて、ご自分の人生を注ぎ込んで下さったのだと思う。

これは、今でこそ分かるのだが、仕事の何倍もたいへんなことだ。「心・技・体」のうち、最も大事な「心」の成育を決定づけるこの6年の間に、こうした先生方と巡り会えたこと、そして、成長や失敗の道のりを一緒に歩んで下さったことは、私たちにとって、何物にも代え難い「宝」だと思っている。

私の番町小学校。息子たちの頃。そして今。

杉村 憲司（昭和40年度卒）

番町小学校3年生の時の担任は、数年前に赴任されたばかりのお若き瓜生初枝（うりうはつえ）先生だった。ご自身としても大好きな低学年の学級担任ということで張り切っておられた。

ある日、図画工作の授業のこと。「瓜生先生」というタイトルで、先生の似顔絵と作文を一枚の画用紙に描く課題があった。

お洒落な瓜生先生は髪にパーマをかけておられた。そのカールした髪に注目して、僕は一生懸命に先生の顔をクレヨンで描いた。いつの間にかカールを強調し過ぎてしまい、髪全体をふり乱したような顔に近づいた。日頃やさしくてニコニコした瓜生先生のイメージに反して、どういう訳か、その絵は先生が激怒したかのような顔になってきた。途中まで出来た絵を見て、何故か笑えるほどおかしくなり、いたずら心も沸いた。折しも当時、力道山の好敵手で人気を集めた外人プロレスラー「グレートアントニオ」のもじゃもじゃの髪の毛が思い浮かんだ。描き上がった似顔絵の横に「僕がつけた瓜生先生のあだ名はグレートアントニオです」等と書き添えた。

帰宅後、日々の出来事を私から聞きたがる母に、似顔絵の話をした。そのとたん、「まあ、プロレスラーですって！ 失礼な！ 駄目でしょ！ 先生に謝らなくちゃ！」と、こっぴどく叱られた。実際に母は、次の保護者会の面談で、「うちの息子が大変失礼な絵を描いてしまいまして」と謝罪をした様子だった。

ところが間もなく返却されたその絵には、孔雀が羽を広げたスタンプが押印されて、「たいへん上手に描きました」と瓜生先生からの最高の評価があった。母は「瓜生先生は、心の広いお方だ」としきりに感心し、僕は、自分の絵が褒められて喜び、はしゃいだ。

またある日。下校後、近所の子供たちと一緒に、隣家の玄関の屋根の上によじ登る遊びに興じ、「度胸くらべごっこ」をやった。危険にも、その屋根から真下の地面への飛び降りるのである。「おーい、憲ちゃん、早く降りなよ」と下からそそのかす。よせば良かったのに。無鉄砲にもジャンプした。その途端に激痛がはしった。案の定、僕は着地に失敗し、両足のかかとを複雑骨折してしまったのだ。「憲ちゃんが骨折をした！」と、ご近所のお母さん達まで騒ぎになった。通信病院に行って、ギブスを巻かれた。痛くて歩けない。

翌朝からの登校は困難を極めた。父と兄にかかえられ、正門になんとか到達すると、「杉村君、休まずに来たね。」と待っている人の声。瓜生初枝先生だ。危ない遊びをしちゃだめよと、てっきり怒られると思っていた。しかし先生は笑顔で「ハイ、私の背中に、いいよ」と言われ、おどおどした私を軽々と負ぶってそのまま階段を登って行く。校舎の2階の片隅にある3年3組の教室まで運搬して下さったのだ。そのとき私は先生の背中で、「この先生なんて力持ちなのだろう」と子供ながらに感激した。まるで雲に乗って空を行くような、生涯忘れがたい感覚。グレートアントニオだった瓜生先生が、とたんに優しい天使のような先生になった出来事だった。

そして、数十年後に二人の息子達も、番町小学校でお世話になることになった。

ある日、平和な番町に事件が起こった。「えっ、番町小学校が廃校に!? そんな馬鹿な」。青天の霹靂とはまさにこの事だった。

我が母校は創立120周年記念行事を終えたばかり。きっとその後も150周年へ向けて確固とした足取りを刻むに違いなかったはずなのに。番町小は、行政の方針によって栄光ある歴史を引きちぎられ、突如、廃校にされるという危機に見舞われた。

その年の春に入学を控えていた6歳の長男の保護者であった私は、怒りを覚え、区の説明会には何度も出かけた。減少しすぎた千代田区の夜間人口を回復させる。そのために、数校を廃校にする。その後には、別の目的の真新しいビルを建てる。直接の廃校に指定されない番町小学校も、この際「痛み分け」で、明治四年からの歴史を終結させて新制の小学校に変える。創立1年から再スタート。校名も校歌もやり直す!? 何度説明を聞いても納得がいかない。私はそんな計画を止めてもらいたく、立ち上がろうと決心した。

幸い、歴史ある番町麹町区域の小中学校の存続の重要性を理解する人は他にも大勢いる事がわかった。それらの人々と私たちは連携して「番町小学校を守る会」が結成された。

全国に散っている卒業生や、近隣地域の人々から廃校をストップしてもらうために陳情署名を必死で集めた。約5万もの署名が瞬く間に集まり、私も代表団の一人として千代田区の教育委員会に陳情書を提出した。新聞やテレビのニュースにも報じられた。区の統廃合計画への反対運動は、日を増すごとに規模が大きくなり、区長選挙や、都議選にも関係する広がりさえ見せた。私はその年、番町小学校のPTAである愛育会の会長をまかされる事になった。

そんな動きは平成4年から数年間続いた。そして、結果として番町小学校は廃校にはならず、ほとんど変わらない姿で残ることができた。辛うじて歴史は継続する。130周年、140周年、そして今、150周年。全国の公立小学校でも類い稀な偉大な歩みだ。地域に根差した健全な小学校教育と、歴史の歩みによって築かれた無形の文化価値は、「痛み分け」という画一の整理整頓には、馴染むものではなかったのである。

「学校の統廃合」という大きなうねりも越えて、子供たちはおかげさまで二人とも無事に卒業させて頂いた。

そして現在。まだ番町小学校から歩いて数分の距離に、私は住み続けている。番町が好きであり、この地から離れる気はおきない。

建築家としての数年間の在外生活を経て帰国し、家業を継ぐため特許を扱う弁理士になった。平成7年卒の長男が、やはり知的財産専門の弁護士になって、私のパートナーになってくれた。霞が関にある特許法律事務所の仕事場では、私が採用した番町小の卒業生が何人もいる。かつて私が愛育会役員を務めた時期に小学生だった当時の子供たちである。「好きな草花は？」と問うと、キッパリ「梅です」と答えがくる。どの人も明るく、はたらき者の若者たちだ。

番町小学校創立150周年、おめでとう。

以上

私の番町入学、そして中村順一君のこと

森本 学（昭和41年度卒）

私はいわゆる越境入学で、番町小学校には6年間中央線の三鷹から通った。最近まで私は、それは番町が名門校だから、又は母が「番町、麴町、日比谷、…」を狙っていたからと単純に思っていた。ところが、先日、95才になる母の昔話を聞いていたら、もう少し因縁があったことが分かった。

母は子供時代に今の世田谷区に住んでいた。ある時、母はいつも遊んでいた友達の母親が「ウチの子は番町小学校に行かせます」と言うのを聞いた。その「番町小学校」という言葉に何やら特別の響きがあり、地元の小学校に行った母の記憶に深く刻まれたのだった。今から90年前に、番町小学校のステータスは既に確立していたのだろう。その30年後、私は番町に入学し、母は番町について「先生方やお母さま方の意識が高い」と感心していたので、母のささやかなりベンジは果たされたのだと思う。

番町小学校に入学して私が衝撃を受けたのは、同級生の中村順一君の早熟ぶりだった。中村君は、祖父母の住む沼津まで東京から東海道線の駅名を暗記しており、それを相手かまわず唱えてみせるのだった。また、色々なものを家から持って来た。山川の日本史年表では、年表の下にある系図がお気に入り、平家や源氏の難しい武将の名前を覚えていた。「愛国歌集」という軍歌集を持って来て、私に歌って聞かせた。

そうした中村君に私は強い影響を受け、日本史年表や愛国歌集も買い揃えた。今でも私が鉄道・歴史オタクであり時々カラオケで軍歌を歌うのは、中村君の影響を抜けきれていない証拠である。

社会人になってから中村君とは、時々会議や会合で会う程度の付き合いだった。そうした折、中村君の部下に私は小学校同級で彼がどんな子供だったかを話してみた。すると「中村さんは全く変わっていません」という返事だったので、私は銀行でも中村君らしく活躍しているのだろうと思った。

数年前のある日、中村君の訃報が豊島君から入った。私は唖然とした。退職したら中村君とゆっくり昔話をし、同じ銀行に就職した娘のことも相談しようと思っていた。今は中村君との出会いを感謝し、そのご冥福をお祈りしたい。

(以上)

番町小学校の思い出

浜田 敏男（昭和41年度卒）

番町小学校創立 150 周年、誠におめでとうございます。私は東京オリンピック開催など、高度成長期の真っ只中に在学しておりました。番町小学校は創立より数多くの国内外の賓客をお迎えする代表校で、私の在学中にはマレーシア国王夫妻がいらした事を覚えています。当時は良く解りませんでした、今思えば大変誇らしい事であり、子供たちが外国に目を向ける貴重な機会であったと思います。



当時はとてつもないマンモス校で全校生徒は 1200 人超と今とは比べ物にならない大人数でした。

昭和 30 年代、教育はまだ昔風で私のクラスでは出来の悪い子は給食台を机代わりにして授業を受けさせられました。私は一年生の春には既に算数が苦手で、一人だけ給食台に座らされました。母親は呼び出され「この子は算数が出来ない、すなわち馬鹿だ」と言われたらしく、「甚だ腹が立った」と言っていました。私は実家が旅館で大勢の大人に囲まれて暮らしていたせいか小一にしては大人びて居て、全く意に介さず冷静で「まあこんなこともあるだろう」と平然としていました。

当時の給食はアルミのお皿におかずが盛られ飲み物は脱脂粉乳で食べられたものではありません。これも一年生の時でしたが給食に烏賊の丸焼きが出て食べられず放課後まで 5 人が残されました。この時も不思議と冷静で「この教師への対応はこんなもんだな」と即座に烏賊を手で掴んでポケットにしまい込み、食べたふりをしました。隣にいた梅葉君（今は三菱化学の役員）に見つかり「あ、お前！何してんだ！」と言うので「シー！静かに！声が高い！」と言って黙らせ、平然と帰りました。梅葉君も同じようにしましたが、これは運悪く見つかってしまいました。こんな感じで、あれやこれやと 6 年間気ままに楽しく過ごし、友人には大変恵まれ今でも付き合いがあり、公私に渡り助けられ有難く感じています。これからも番町の発展をお祈りいたします。この度は誠におめでとうございます。

ガミセン

星野 雅信（昭和42年度卒）

岩上廣志先生が音楽教諭として番町小学校へ赴任されたのは昭和 40 年、私たち 95 回生が 4 年生になった年のことです。1 クラス 55～56 名、1 学年 5 クラスという大人数でしたので、狭い校庭や屋上で遊ぶ時も一人当たりの面積が決められ、また私を含め多くが遠方から通う越境入学者でしたから抱え込んだストレスの反動（？）で図工や音楽の時間は大騒ぎ、いつも先生方を困らせていました。

そこへ登場されたのが岩上先生。いきなり大音声で「お前たちー、何やってんだーっ!!」

それまで優しい先生に慣れ親しんでいた私たちにとってはショッキングな出来事でした。が、早速 A

君は「岩上先生＝ガミガミ先生＝ガミセン」と命名、我々 95 回生悪ガキ軍団 V.S ガミ先の戦闘開始の狼煙が揚がりました。

音楽室の壁には各クラスの「レパートリー表」が掲げられ、自分たちで選び演奏した課題曲がガミセンに認められるとその曲名を棒グラフに書き足せました。指揮者・伴奏者も自薦・他薦で普段は目立たない級友がヒーローにもなりました。可否の選考は音楽室に入る前から始まっています。ガラガラ入室すると「今日は演奏しなくてよい」。クラス一同「えーっ!」。「音楽の始まりは」「真っ白い紙に筆を置く瞬間と同じ」「その瞬間がとっても大切」「お前たちの紙は白くはない」ジ・エンド。また「お辞儀の仕方がワルい」「笛をかまえる動作が揃っていない」ジ・エンド。悔しくて悔しくてクラス一丸となり休み時間も練習に費やした結果、やがて「ヒツジの鳴き声はソレだけ?」「波のミはメとミの中間音で」と、グイッと引き込まれながら「音学」が「音楽」へと昇華する瞬間に比例してレパートリーも増えストレス発散の時間だった音楽授業がいつしか登校の目的に変わっていました。6 年生では難曲「ペルシャの市場にて」に挑戦、夢中で二段ハーモニカの穴を追った放課後の練習を思い出します。

私たちが番町小学校を卒業して 38 年後の平成 17 年、岩上先生がご著書「光り輝く子供たち」を出版されたのを機に教鞭を執られた千葉市立末広中学校・江東区立第一大島小学校・杉並区立馬橋小学校・番町小学校・千代田区立富士見小学校・墨田区立両国小学校・聖徳大学附属小学校の教え子たち＝未成年から 70 歳まで 154 名＝が一堂に会し【同窓会】を開きました。参加者全員で「スキー」「春が来た」「もみじ」等を合唱、リハーサルなしでも岩上先生の指揮棒を見つめピタッと決まるコーラス。鳥肌が立ちました。

私たちは誰もがガミセンの教え子でした。幸せな、とても幸せな教え子たち。

そして私は、かつて音楽室で揚がった狼煙が、実は私たちの人生に於ける道標であったことを思い出したのです。

(平成 17 年 10 月「番町」第 3 号より一部抜粋・加筆しました)

『教育の先進性』

神保 雅人(昭和43年度卒)

千代田区立番町小学校というと、世間の人々は『歴史と伝統』というキーワードを思い浮かべることでしょう。この言葉のイメージからは、古めかしいものを守り続けているのではないかと思われがちですが、実際は、古きよきものは尊重しつつ、世の中に先駆けて新しい考え方を採り入れている学校だと思っています。

私が母校の教育と他校の教育との違いを意識し始めたのは、小学校 2 年生の夏休みに従兄の通知表を見せてもらった時でした。他校の通知表には教科ごとに 5・4・3・2・1 の数字が書かれていたのですが、母校の通知表は各教科の单元ごとに 3 段階の評価で、最も低い評価でも『努力を要する』というものでした。この母校の方式は後に各地に広まっていきましたが、当時としては斬新なものでした。

当時は今と違って子供の数が多く、しかも 2/3 が越境入学ということもあって、1 クラス 60 名で 5 クラスという編成でした(上の学年は更に多かった様です)ので、担任の先生はクラスのマネジメントにはさぞかし苦労されただろうと思いますが、その分統制はきつく、そういう中でも生徒同士が一体感を共有して自主的に行動出来る様にする為に、行事は重視されていたのだと思います。

それではただ窮屈な学校生活だったのかということそういう訳ではなく、高学年になると、教科担任制や必修クラブのお陰で潤いのある生活が出来たと思います。教科担任制は最近漸く文部科学省が全国的

に実施しようとしていますが、番町小学校では実験校として遥か昔に実施していました。低学年の時から理科好きだった私にとっては、中学校の第1・第2分野に相当する区分けで2人の理科の先生に授業を持っていただけたのが嬉しかったです。また、必修クラブでは算数クラブに入れて、教科書では扱わない楽しい算数に出会えました。円周率について調べて発表したのも良い思い出です。こういう教育が今の私の礎となっていると思います。

番町小学校の思い出

荒垣 さやこ（昭和44年度卒）

私は昭和四十四年秋、六年生の時に東京に引っ越して番町小学校に転入したので、在校期間はほぼ半年。同級生が数年かけてまとめてきた「生い立ちの記」を三〜四か月で仕上げねばならない、という気が遠くなりそうな現実と直面して困惑したのが、なんといっても強烈な記憶だ。これには同級生も心底同情してくれた。

湘南地方の私立校で一学年わずか二クラス、一学級三十数人というのんびりした環境で育った私は、突然都心の学校で、一クラスに六十人がひしめいて教室には足の踏み場もなく、授業も横向きや後ろ向きで受ける、という環境に驚愕した。千葉県や埼玉県から一時間もかけて通ってくる生徒もあり、越境入学者が同期約三百人の過半数を占める時代だった。それだけに顔ぶれは多彩で、その後卒業生のほとんどが麹町中学に進学したこと、部活やクラス替えその他で番町の同期のかなりとは顔見知りになった。さらに高校・大学と慶応に行ったので（麹町中からは百人ぐらいが慶応へ進学している。）、卒業後も小中高大それぞれの同窓会で番町の同期にはしばしば会うことがあった。還暦近くなってから新たに知り合いになったりした同期もいる。このように、さまざまなバックグラウンドの同級生と幼少時より親しく接することで、今から考えれば“多様性の恩恵”に浴したと思う。

それにしても当時の先生方の優秀さは今では考えられないほどだ。昨今は三十数人のクラスでも手に余る教員が多いと聞かすが、生意気な子も多かったクラスをしっかりとグリップしておられたと思う。

あと一つ思い出すのは、卒業式に担任の江本先生が袴姿で颯爽とあらわれたこと。これには明治生まれの父も驚いていたが、晴れの日のお姿も印象に残っている。

そろそろ定年を迎える人が増えてきた私たちの期は、還暦同窓会を機に旧交を温め、以来少人数でも集まる機会が増えてきた。番町の同期のおかげで“楽しい老後”を過ごせそうである。

創立百周年を振り返って

荒井 宏（昭和47年度卒）

昭和47（1972）年5月10日、番町小学校創立百周年記念式典が挙行されました。

本来の百周年は、その前年12月4日ですが、真実は存じませんが、新校舎の建設中でありその竣工を待って、行われたのではと捉えております。

当日は、御料車であるセンチュリーとお付きのプレジデントが校庭に乗り入れられ、（昭和）天皇陛下・皇后陛下のご台臨となりました。

校舎に入られた後、校庭での「全校ページェント」をご覧になられ、講堂での記念式典に臨まれました。

記念式典には、当時の5年生・6年生の児童が参加し、我々第百回卒業生（昭和47年度卒）は、光栄にも最上級生として参列致しました。

天皇陛下のお言葉、小山正一校長先生のお言葉、美濃部亮吉東京都知事・遠山景光千代田区長の祝辞等を拝聴し、国歌、千代田区歌、校歌、創立記念日の歌、百周年を祝う歌（日本の夜明け明治から伝統築いたこの百年…月）を歌いました。

参列した児童は、番町小学校伝統の「呼びかけ」を行い、各クラス男女1名ずつ、4クラス2学年の計16名のリード役に、私も選ばれ、門田邦光先生のご指導の下、練習を繰り返し、当日を迎えました。

私は、「天皇陛下」、「栄えある創立百周年記念式典」、「ここに迎えた百周年」、「国際社会に役立つ人になるために」と発しました。

最後の「国際社会に…」は、「純ドメスティック」な仕事に就いた私を、絶えず忸怩たる思いにさせているフレーズであります。

百周年に向かう上級生での学生生活は、創造活動、集会活動が重視され、「団結」という言葉が素直に受け止められ、「第百回卒業生」としての自覚も醸成されたと振り返ります。

卒業後、同窓会学生代表として参列させていただいた百十周年記念式典、50歳を過ぎて参列させていただいた百四十周年記念式典に引き続き、大きな節目である百五十周年記念式典に参列することが出来れば、どんなに幸せかと考えている今日この頃であります。

千代田区立番町小学校創立 150 周年おめでとうございます。

藤岡 誠也（昭和52年度卒）

半世紀前の創立100周年、昭和47年、2年生の時、記念式典に参加しておりました。昭和天皇皇后両陛下をお迎えし、プール前に整列し目の前をお通りになられた時の事を鮮明に憶えております。100年の歴史ある小学校だから来てくれたのだろうと子供ながらに思っておりました。

それから50年が経ち、たくさんの同窓生を送り出してきたのだなあ感慨に耽ります。

私の父、妹、従兄妹、妻、息子も番町小学校が母校です。父が同窓会やPTA役員をしていたこともあり、常に番町小学校と共にありました。

地元番町で育った事もあり、幼稚園から番町でした。幼稚園からは殆どが番町小学校へ入学しましたが、当時から越境の児童も多く、1クラス45名前後の4組編成でした。1・2年時は千葉先生（女）、3年時は井上先生、4年から6年までは世取山先生が担任でした。世取山先生は深い低音ボイスで昭和の俳優さんの様な甘い顔立ちが印象的でした。授業を突然百人一首大会にするなど楽しく過ごしたことを思い出します。

番町の同級生とは今も仲良くしています。当時はそのまま麹町中学へ行く人も多かったですから、番町幼稚園から麹町中学まで11年も一緒の同級生もいます。たまに集まると思い出を共にした小中学生の頃に戻れます。

ニコニコ堂を忘れてはいけません。朝、登校前に買い忘れたノートや図工で使う折り紙など買いましたよね。本当に便利でお世話になりました。ニコさんのおねえさん（おばさん）知ってますよね。お名前ご存じの方は少ないのではないのでしょうか？ 小林妙子さんです（小林さんご了承済）。今年、この地で創業104年。番町と共に歴史ある文房具屋さんです。現在は朝、買いに立ち寄ることが出来なくなったそうで残念です。時代の流れでしょうか。

昨年からの新型コロナウイルスで、先生方、児童、保護者の皆さんは大変なご苦勞をされたかと思えます。今年12月4日創立記念日の頃には平穏な日常に戻っていることを祈っております。

私の番町

中尾 文美（旧姓：佐藤）（昭和54年度卒）

行きたくない!ママと帰る! と駄々をこねられるのが大変だから…と、私の両親は私を幼稚園に入園させませんでした。

「幼稚園にはいつから行くの?」と、ある日突然聞いた私。「幼稚園に行きたいの?」…「うん!」もう既に入園式は終わっている初夏に、私は番町幼稚園に少し遅れて入園しました。

初めて登園した日、幼稚園の前庭で遊んでいる園児に「新しいお友達です。誰か遊んでくれる人?」と先生。「私が遊んであげる。これ跳んで!」1人の女の子に竹製の小さなフラフープのような輪を渡され、ぴょんぴょんぴょんぴょん。その日から私達はずっと友達。これが私の番町の始まりです。

卒園後は番町小学校へ入学。その人気の高さから区立にもかかわらず、様々な地域から通う生徒も多く、大人になった今、多種多様な方面で活躍している友達にいつも助けられています。

時が過ぎ、私の子供達も番町幼稚園、小学校に通い、そして卒業。私が走った校庭を子供達も走り、私が泳いだプールで子供達も泳ぎ、子供達の友達の両親が私の友達であることも多々あり、たくさんの時間が流れても、止まることの無い関係が形を変えて続いています。

時代の流れとともに、良くなった面もあれば、昔の方が良かった面もあると感じていますが、どんな流れにも負けずに、崩折れず、屈折れず、勇気と信念を持って、より良い学校づくりに、先生、保護者、卒業生、地域皆で支えていかれたらと願っています。

ずっとずっと、番町の輪が続きますように。梅の香りが続きますように。

同期会・クラス会報告

卒業 60 周年記念同期会

昭和 34 年（1959 年）3 月に卒業した私たちは、令和元年（2019 年）11 月 5 日に、卒業 60 周年記念同期会を開催しました。会場は霞が関ビル 34 階にある霞会館。ここは元華族の当主を会員とした倶楽部で、会員の大河内元冬さんの計らいで実現しました。スイスから駆け付けたイエラベック松井行子さん、普段はカナダ在住の鮫島和子さん、同じくタイ在住の大原雄一さんの海外組を含め 46 名が参加。初めて踏み入れる別世界に若干の緊張と興奮を覚えました。神尾筑馬さんの司会で始まり、大河内さんの挨拶と乾杯で暫し歓談。料理は大変美味しく話も弾みました。

実はこの年、大河内家で、藤原定家本・源氏物語「若紫」が発見されたのです。大河内さんからそのいきさつなどを解説していただき、皆そのコピーに見入っていました。

前回の同期会は 4 年前なので、久しぶりの積もる話で、あちこちに歓談の輪ができ、時間の立つのも忘れてしまいました。残念ながら 3 時間の会もあっという間に終了時間が来てしまい、最後は坪内が挨拶に立ち、再会を期して閉会となりました。

ほとんどの参加者は、話し足りなく別れがたく近くのライオンで二次会となり、ワイワイと話を続けました。三々五々退出していきしましたが、三次会に行った方々もおられたようでした。いくつになって

も小学校時代の童心に戻って、和気藹藹で時間を共に過ごせる同窓生というのはいいものですね。

記：坪内 文生（昭和 33 年度卒）



昭和 47 年度卒 6 年 3 組「初のクラス会」

幹事：岡田 卓也・河合 松太郎・長谷川 眞史・尾高 慶子 連絡先（Email: banchou2019@gmail.com）

2019 年春頃より、約半年後の実現に向けて昭和 47 年度卒 6 年 3 組のクラス会が幹事間で計画され出した。私達は抑々第 100 回卒業生という印象的な卒業を果たしたが、担任の富川実先生が若くして鬼籍に入られ、加えてクラスメイトの約半数の連絡先が手掛かりもないまま、集まりにくい状況が 2019 年春に迄及んでいた。気づけば時代は令和を迎え昭和より 3 代を生きる事となり、番町小創立 150 周年という節目を控え、いよいよ自分達も還暦を迎える段階に入り「一度クラス会を実現し、元気なうちに皆で会っておこう」という動機が、幹事間で一致しての事だった。

創立記念日を念頭に置き、2019 年 12 月 7 日土曜日夕刻、初のクラス会が開かれた。参加者数は幹事の予想を上回り、19 人に達していた。当然の事とは言え、中学受験で離れたクラスメイトの中にはおよそ 47 年ぶりに再会する同士も居り、再会を喜び合う姿を目の当たりにし、成長の過程や時の流れを瞬時に感知しただけでなく、懐かしいという情感を超えた多幸感や感動さえ覚えた。

司会・進行役の案内の元、何十年という月日を経てもわだかまりなく笑いの絶えない、久々の親交が進んだ。旧友同士での近況報告は飾らない言葉で其々語られ、平穏に自分らしく生きている様子が伺えた。諸事情によりやむを得ず不参加となったクラスメイトからはメッセージを預かっていたので、会の途中で読み上げ皆への報告とした。当時励んだ卒業制作過程での事、影響深かったアート系の先生方、練習・発表した音楽劇、番町小周辺の風景、そして互いの両親や他の旧友の話題も含め、思い出話は尽きることなく瞬く間に閉会し第一会場を後にした。

このクラスは恩師との再会こそ叶わないが、こうして皆で集まった略式の席上ではあるが、故・富川先生を懐古する振る舞いは、初クラス会の参加者が共有した新たな思い出となった。今後互いに会える回数が気になる年代となったが、健康に気を付け、まだまだ責任ある世代であることも自覚しつつ、これを機に当クラス会への参加が増えることを期待し、近い将来の再会はいつ頃にしようか、と幹事一同思いを巡らせているところである。

最後に会場を快く提供いただいた番町小 5 年上の先輩、ゼン・カフェマリーナのオーナー・高田滋様にも御礼申し上げる。



令和 2 年度後期(2020.10/1～2021.3/31) 同窓会寄付者名簿

(敬称略)

氏名	ID	金額
津島 淳	S53-116	23,000
木村仁美	S42-347	18,000
中嶋俊一	S47-323	13,000
新井 巖	S30-202	10,000
渡辺知明	S48-428	10,000
並木克己	S40-428	10,000
馬場黎子	S37-449	10,000
鳥居 明	S41-226	10,000
吉岡 璋	S30-361	10,000
高橋 遠	S37-425	10,000
松本豊和	S35-235	10,000
北村 正	S44-414	10,000
降旗宏之	S46-124	8,000
遠藤英樹	S63-106	8,000
竹川清悟	H21-319	8,000
竹川茉莉	H17-319	8,000
藤本英夫	S36-630	8,000
西嶋良信	S36-427	8,000
林 閏珠	S44-130	8,000
河野元嗣	S47-315	6,000
高杉卓志	S41-221	6,000
海老原順子	S42-342	6,000
吉本文宏	S31-339	5,000
市川三奈	S46-437	5,000
平野雅章	S36-127	5,000
小林弘子	S28-232	5,000
尾高慶子	S47-334	5,000
坪倉 栄	S44-548	5,000
横山直樹	S51-229	5,000
横山エミ	S48-343	5,000
由谷真一	H30-234	5,000
横山英貞	S42-534	5,000
高橋伸彦	S50-213	5,000
渡邊愛佐	H20-231	5,000
小澤利男	S15-104	3,000
田口千恵	S42-548	3,000
片山照敏	S44-409	3,000
杉村信寿	S44-117	3,000
恩藤照夫	S23-110	3,000
石黒麻利子	S48-243	3,000
石橋義通	S42-504	3,000
坪内文生	S33-425	3,000
堀 妙子	S31-243	3,000
大國守彦	S19-126	3,000
岡野洋三	S41-209	3,000
磯貝しま	S20-917	3,000
宮脇信介	S47-131	3,000
浅原寛人	S41-301	3,000
西脇裕一	S53-316	3,000
原 美鈴	S42-246	3,000

氏名	ID	金額
黒須篤夫	S42-110	3,000
清水芽以	H23-118	3,000
大石義和	S42-204	3,000
川村知重	S31-212	3,000
三輪田 真	S38-129	3,000
小野亮介	H18-112	3,000
風間清貴	S37-508	3,000
相川麻紀	S61-229	3,000
海老塚 茂	S43-305	3,000
太田一誓	H29-204	3,000
本山房子	S27-235	3,000
尾原愛理彩	H28-901	3,000
向井郁子	S27-251	3,000
水谷知靖	S53-421	3,000
加部佳治	S47-413	3,000
豊島 彩	H13-120	3,000
豊島 藍	H10-121	3,000
岡本幸憲	S33-111	3,000
渡辺高志	S37-540	3,000
杉田隆氏	S41-121	3,000
服部篤彦	S49-226	3,000
篠原敏修	S35-220	3,000
北村佳子	S33-145	3,000
山城健二	S63-122	3,000
小川和宏	S56-405	3,000
竹俣忠昭	S16-431	3,000
大沢 誠	S39-406	3,000
島村隆一	S31-218	3,000
朝川健二	S33-302	3,000
吉永幹子	S30-314	3,000
中 眞知子	S34-658	3,000
原田一枝	S21-239	3,000
白子千尋	S50-113	3,000
堤 恵利子	S46-242	3,000
北原愛真音	H30-209	3,000
北原優依奈	R01-215	3,000
對間康二郎	S51-120	3,000
岡田和之	S38-208	3,000
中山久子	S44-453	3,000
河村朋邦	S33-116	3,000
常間地 力	S50-212	3,000
田中義一	S41-520	3,000
山本 康	S15-331	3,000
長岡 真	S44-329	3,000
山田素行	S54-424	3,000
今西誠一	S38-104	3,000
小原正幸	S51-413	3,000
荒川秀夫	S23-101	3,000
正木美樹子	S20-930	3,000
大石 滋	S43-409	3,000

氏名	ID	金額
金子哲也	S39-412	3,000
川西道子	S22-244	2,000
石井裕代	S21-206	2,000
鈴木秀夫	S37-320	2,000
西岡芳文	S44-127	2,000
小宮山毅	S40-101	1,000
室井邦夫	S30-349	1,000
太田佳生	S27-206	1,000
古澤正夫	S42-130	1,000
布村行雄	S56-122	1,000
布村文雄	S58-319	1,000
布村道雄	S62-216	1,000
布村定雄	S24-108	1,000
一木俊吾	H15-204	1,000
松田健司	S32-331	1,000
杉 大次郎	S29-122	1,000
片倉 直	S54-308	1,000
古山マキノ	S56-443	1,000
秋元寿明	S38-401	1,000
宮崎かをる	S13-406	1,000
小高敏光	S34-444	1,000
大前鈴江	S29-139	1,000
本間 暁	S60-419	1,000
伊藤登輝子	S30-307	1,000
飯吉雅子	S28-137	1,000
押木愛椰	H30-109	1,000
磯野彩夏	H28-103	1,000
磯野千夏	H24-107	1,000
大川久爾子	S44-445	1,000
斉藤裕康	S38-316	1,000
丸山一義	S59-421	1,000
市村有紀子	S61-131	1,000
市村美桜子	H28-203	1,000
		515,000

合計 515,000 円

* 令和 2 年度後期 (2020/10/1～2021/3/31) の同総会への寄付 515,000 円、番町小学校へのベルマーク寄付 (S26-241 林田 令子様、元愛育会 山田美保子様、S46 卒 匿名の方) をいただき誠にありがとうございました。

150 周年記念事業協賛会 協賛会費振込者一覧 2020.10/1～2021.3/31 (敬称略)

氏名	ID	金額
岩瀬裕全	S36-104	100,000
小和田哲男	S30-313	50,000
六番町町会		50,000
岡野洋三	S41-209	50,000
長谷川泰雄	S32-324	50,000
竹川勝治	S49-219	50,000
河相 洸	S14-313	50,000
松島紗英子	H25-228	50,000
山田素行	S54-424	50,000
渡辺知明	S48-428	40,000
新井 巖	S30-202	30,000
歌田勝弘	S12-206	30,000
中部謙一郎	S43-330	30,000
吉川知輝	H22-337	30,000
高橋伸彦	S50-213	30,000
津島 淳	S53-116	20,000
柳内ゆり	S59-436	20,000
桜井紀子	S33-246	20,000
岩瀬秀郎	S19-121	20,000
高島博志	S41-518	15,000
岩井 敏	S42-309	15,000
中嶋俊一	S47-323	15,000
渡 洋二郎	S35-537	15,000
荒井 宏	S47-104	15,000
知野光雄	S35-319	10,000
佐藤章一	S22-237	10,000
吉本文宏	S31-339	10,000
大熊礼子	S14-506	10,000
坂本 歩	S48-411	10,000
松井英輔	S60-121	10,000
里井英一	H12-115	10,000
杉浦友子	S15-245	10,000
雨宮明文	S45-201	10,000
藤田健一	S36-617	10,000
横田敏一	S35-436	10,000
河野元嗣	S47-315	10,000
高杉卓史	S41-221	10,000
斎藤太治	S59-307	10,000
竹内秀樹	S41-222	10,000
土田恭四郎	S44-427	10,000
久保川幹夫	S43-511	10,000
川村知重	S31-212	10,000
藤波慎二	S35-131	10,000
草刈隆郎	S26-218	10,000
大沼英一	S54-304	10,000
相川麻紀	S61-229	10,000
並木克己	S40-428	10,000
太田一誓	H29-204	10,000
竹川清祐	H21-319	10,000
竹川采莉	H17-319	10,000
中村道子	S06-323	10,000
福島陽郎	S47-126	10,000
高橋治子	S21-224	10,000
豊島快児	S41-224	10,000
太田洋史	S27-107	10,000
杉田隆氏	S41-121	10,000
宮入 守	S36-634	10,000
玉井 啓	S34-252	10,000
横田明重	S45-134	10,000
山名 彰	S41-235	10,000
吉岡 璋	S30-361	10,000
鈴木豊治	S30-329	10,000
西嶋良信	S36-427	10,000
吉田誠男	S35-535	10,000
藏田隆之	S43-112	10,000
三上喜貴	S39-533	10,000
関 達夫	S38-520	10,000
本田光芳	S18-251	10,000
松井 隆	S37-134	10,000
小林弘子	S28-232	10,000
津田真知子	S46-440	10,000
高橋 遠	S37-425	10,000
松本豊和	S35-235	10,000
岡田和之	S38-208	10,000
山岡照吾	S30-133	10,000
中西弘子	S47-143	10,000
加藤花野	R01-212	10,000
杉山充洋	S60-112	10,000
星野雅信	S42-228	10,000
林 間珠	S44-130	10,000
猪口雄二	S41-504	10,000
藤井克美	S39-428	10,000
西岡芳文	S44-127	10,000

氏名	ID	金額
西岡眞理子	S44-147	10,000
西岡史音	H18-324	10,000
西岡天音	H24-324	10,000
森本 学	S41-234	10,000
柳澤徳久	S51-330	10,000
岩瀬太一郎	H07-901	10,000
春日尚子	H09-901	10,000
岩瀬弘太郎	H12-204	10,000
岩瀬悦子	H14-104	10,000
尾高慶子	S47-334	10,000
葛 公英(すみ子)	S09-133	10,000
橋本実・桂子	R01-224 保護者	10,000
松尾 宏	S45-327	10,000
蒲生俊敏	S38-512	10,000
伊東正博	S37-405	10,000
甘糟綾子	S29-145	10,000
後藤達之助	S50-409	10,000
中里泰子	S38-147	8,000
飯田総一郎	S46-302	8,000
合崎邦久	S29-102	8,000
蘇 勇豪	R01-117	8,000
生守二子	H29-201	7,000
三宅算之助	S33-135	5,000
小澤利男	S15-104	5,000
栗原智子	S38-238	5,000
山田匡広	S58-422	5,000
橋本貴美子	S33-352	5,000
櫻村徳彦	S42-512	5,000
金子素大	H29-113	5,000
西野修一	S41-237	5,000
川西道子	S22-244	5,000
井上 一	S35-601	5,000
江口清英	S29-109	5,000
西尾成子	S22-224	5,000
田口千恵	S42-548	5,000
片山智子・僕(夫)	S39-453	5,000
細谷龍男	S34-416	5,000
片山照敏	S44-409	5,000
小川澄子	S12-311	5,000
岡田衛生	S08-334	5,000
遠藤 彰	S42-406	5,000
藤田 睦	S41-325	5,000
小池郷子	S41-545	5,000
石黒麻利子	S48-243	5,000
古澤正夫	S42-130	5,000
長岐雅晴	S37-326	5,000
乗杉輝彦	S41-427	5,000
橋本義通	S42-504	5,000
道野康子	S21-248	5,000
中山康子	S40-446	5,000
穂積紀久子	S24-239	5,000
朝倉正博	S47-101	5,000
柳澤仁那	H27-231	5,000
柳澤洋美	S50-139	5,000
田中康資	S44-228	5,000
関 健二	S38-519	5,000
笠井清純	S35-606	5,000
布村行雄	S56-122	5,000
布村文雄	S58-319	5,000
布村道雄	S62-216	5,000
布村定雄	S24-108	5,000
湯淺貴文	S47-232	5,000
一木俊吾	H15-204	5,000
藤根 剛	S42-129	5,000
今井友輝	H27-107	5,000
今井友音	H30-107	5,000
小倉裕貴	H20-305	5,000
小倉あかり	H24-113	5,000
今津幸雄	S40-104	5,000
田久保善彦	S57-314	5,000
金澤賢一	S58-310	5,000
志村 詢	H18-118	5,000
澤田辰志	S42-319	5,000
小泉信生	S16-323	5,000
元田順子	S33-452	5,000
磯貝しま	S20-917	5,000
柳井 明	S17-446	5,000
宮脇信介	S47-131	5,000
梅沢健太郎	H28-213	5,000
井上善雄	S51-407	5,000
浅原寛人	S41-301	5,000
林ふみ子	S40-251	5,000

氏名	ID	金額
成毛宏行	S33-223	5,000
原 美鈴	S42-246	5,000
村松正實	S18-257	5,000
中島次郎	S21-170	5,000
松田健司	S32-331	5,000
山本泰成	S37-538	5,000
中山秀夫	S22-905	5,000
市村恵美	S28-329	5,000
相川大知	H27-201	5,000
相川太希	R01-201	5,000
黒須篤夫	S42-110	5,000
井上瑠子	H30-106	5,000
秋田恒美	S18-101	5,000
瀧口大洋	H10-115	5,000
瀧口祐介	H12-311	5,000
飛田貞子	S16-136	5,000
望月 希	H30-233	5,000
杉 大次郎	S29-122	5,000
阪場敏之	S45-418	5,000
黒沢孝子	S33-445	5,000
遠藤英樹	S63-106	5,000
橋本かほる	S38-451	5,000
大石義和	S42-204	5,000
片倉 直	S54-308	5,000
小澤利男	R01-125	5,000
三輪田 真	S38-129	5,000
林 千史	S45-524	5,000
市川和博	S35-114	5,000
小野亮介	H18-112	5,000
福澤世都子	S41-344	5,000
菊池太朗	S13-115	5,000
風間清貴	S37-508	5,000
古山マキノ	S56-443	5,000
津 浄	S40-348	5,000
宮部美佐子	S14-544	5,000
佐藤清史	S57-411	5,000
金 民世	S50-109	5,000
関 達夫	S38-520	5,000
秋元寿明	S38-401	5,000
大里康子	S31-244	5,000
湖山泰成	S42-213	5,000
海老塚 茂	S43-305	5,000
青木節子	S11-432	5,000
野村 優	R01-123	5,000
和田一郎	S39-137	5,000
宮崎かをる	S13-406	5,000
島村君子	S10-410	5,000
山内悟嗣	H29-127	5,000
山内啓嗣	R01-236	5,000
高部三七子	S15-238	5,000
本山房子	S27-235	5,000
石原広子	S25-153	5,000
北瀬武志	S41-129	5,000
竹田文男	S35-122	5,000
沖 実枝子	S34-652	5,000
馬場黎子	S37-449	5,000
藤本 操	S38-328	5,000
降旗史子	S19-331	5,000
大山俊介	S37-311	5,000
染谷信雄	S44-121	5,000
渡辺義秋	S42-539	5,000
和田高士	S43-543	5,000
師岡龍登	H24-328	5,000
高増 潔	S41-124	5,000
佐藤幸子	S29-239	5,000
塚原謙之	S41-522	5,000
藤井宏昭	S20-131	5,000
小高敏光	S34-444	5,000
枝 浩	S57-404	5,000
石川 梨	R01-205	5,000
石川慎悟	R01-105	5,000
宮沢忠久	S43-138	5,000
中澤大智	H22-120	5,000
佐原愛理彩	H28-901	5,000
市川建美	S32-102	5,000
永石侑里	H25-220	5,000
永石佳世能	H28-115	5,000
向井郁子	S27-251	5,000
佐藤理恵子	S46-250	5,000
水谷知晴	S53-421	5,000
豊島 彩	H13-120	5,000
豊島 藍	H10-121	5,000
大嶋幸子	S33-249	5,000

氏名	ID	金額
渡辺高志	S37-540	5,000
曾根康司	S59-311	5,000
丸田明利	S50-422	5,000
風間健次郎	S40-511	5,000
平井たま希	R01-226	5,000
西巻鷹彦	S21-177	5,000
飯田淳一	S45-202	5,000
橋本和果	R01-224	5,000
北岡麻衣	H17-211	5,000
服部篤彦	S49-226	5,000
高久紘一	S29-219	5,000
増岡研介	S44-336	5,000
宮崎黄石	S33-432	5,000
石河 力	S49-304	5,000
三木信子	S41-149	5,000
碓 淳吉	S41-205	5,000
佐々木希絵	H10-314	5,000
奥島雄一郎	S55-306	5,000
奥島丈太郎	H22-105	5,000
山城健二	S63-122	5,000
小川和宏	S56-405	5,000
植田春莊	S17-341	5,000
竹俣忠昭	S16-431	5,000
大沢 誠	S39-406	5,000
若瀬琢郎	S32-205	5,000
吉行和子	S22-220	5,000
平野雅章	S36-127	5,000
山田 稔	S20-158	5,000
田口 豊	S40-521	5,000
増田興一	S17-359	5,000
菊田隆一	S31-218	5,000
若尾亮祐	H22-338	5,000
若尾理彩子	H24-232	5,000
本間 暁	S60-419	5,000
吉永幹子	S30-314	5,000
工藤すみ子	S37-347	5,000
牧野徹夫	S42-132	5,000
小坂三千秋	S43-216	5,000
菊池二郎	S13-114	5,000
渡沢 修	S42-114	5,000
宮内紀子	S31-249	5,000
中野裕至	S43-526	5,000
白子千尋	S50-113	5,000
横山 元	S44-343	5,000
徳永清彦	S57-114	5,000
神沢正子	S16-217	5,000
松下茂夫	S18-154	5,000
福田謙一	H10-224	5,000
堤 恵利子	S46-242	5,000
太田輝之	H26-103	5,000
川口恵子	S41-440	5,000
長谷川真史	S47-326	5,000
西山邦彦	S32-226	5,000
松井一史	S41-326	5,000
井出悦司	S42-306	5,000
佐羽美穂子	S18-307	5,000
宋 博達	H21-115	5,000
宋 賢達	H26-115	5,000
末光 操	S33-149	5,000
一條盛顯	H22-204	5,000
一條兼賢	H24-301	5,000
堀野靖人	S44-334	5,000
岡田英一	S43-307	5,000
水谷有菜	H26-223	5,000
菅谷良裕	S45-515	5,000
菅谷昌久	H21-112	5,000
松久幸敏	S30-347	5,000
田代茂嗣	H16-219	5,000
田代理恵	H21-320	5,000
北原愛真音	H30-209	5,000
田原優奈	R01-215	5,000
國武久子	S37-448	5,000
中島俱子	S22-130	5,000
森 高広	S44-240	5,000
對開啓人	H24-215	5,000
今井桂子	S44-549	5,000
押木愛椰	H30-109	5,000
高階重和	S14-326	5,000
吉野弘恭	S51-431	5,000
香川久美子	S31-252	5,000
出島忠輔	H30-121	5,000
望月春希	R01-239	5,000
小泉信隆	S41-306	5,000

氏名	ID	金額
美濃部慎次	S46-231	5,000
小嶋拓治	S42-412	5,000
富士滋美	S35-623	5,000
北村 晋	S41-514	5,000
田中啓子	S18-318	5,000
石垣幸雄	S37-303	5,000
杉村憲司	S40-519	5,000
水谷洋子	S19-333	5,000
磯野彩夏	H28-103	